

## 巻末資料

### 大学入学共通テスト問題評価・分析委員会 外部評価分科会の外部評価（高等学校教科担当教員の評価）

大学入学共通テストは、「大学への入学志願者を対象に、高等学校の段階における基礎的な学習の達成の程度を判定し、大学教育を受けるために必要な能力について把握することを目的」とした試験として実施されている。このことに照らし、令和5年度大学入学共通テスト（本試験）の試験問題について、以下の項目別（8項目）及び総合的観点から適切であったかを、枠内の評定値により4段階で評価した。

#### 1 項目別評価

- (1) 問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題の出題も含め、バランスのとれた出題となっている（出題のねらい）
- (2) 高等学校学習指導要領の範囲内から出題されており、特定の分野・領域に極端に偏っていない（出題範囲）
- (3) 問題で使用される資料等<sup>\*1</sup>が、特定の教科書に偏っていない（題材）
- (4) 高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定<sup>\*2</sup>がなされた問題が含まれており、その場面設定が、教科・科目の本質に照らし必然性のある形で出題されている（問題の場面設定）
- (5) 試験問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は適切である（問題構成）
- (6) 文章表現・用語は適切である（表現・用語）
- (7) 問題の難易度は適正である（難易度）
- (8) 得点のちらばりは適正である（得点のちらばり）

※1 教科書等で扱われていない初見の資料等を扱う場合、資料そのものに対する知識を問うのではなく、資料を活用して高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための題材として扱うことを前提としている

※2 授業において生徒が学習する場面や、社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面、資料やデータ等を基に考察する場面など

#### 2 総合評価

1の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、大学入学共通テストの試験問題として適切である

(評定値)

- 4 あてはまる
- 3 ある程度あてはまる
- 2 あまりあてはまらない
- 1 あてはまらない

科目名	国語
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、高等学校国語科における基礎的な学習内容の理解や思考力等を問う出題となっている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から出題されており、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、高等学校で身に付けた知識や思考力等を問うための適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	生徒間の対話や、教師と生徒の話し合いといった高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされた問題が含まれており、思考力等を問うものとして適切である。
(5)問題構成	4	本文や資料等の内容に応じた設問数や選択肢数が設定され、配点や設問形式は適切である。
(6)表現・用語	4	受験者が理解できなかつたり、誤解したりする表現はなく、設問、資料等とも文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	4	様々な設問を組み合わせて作成されており、全体として問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	全体として得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると、全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度や、大学教育を受けるために必要な能力を把握することを目的とした試験問題として適切である。

科目名	世界史A
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	小問ごとの各テーマに興味深い内容のものがああり、また、リード文や資料と関連性の低い設問も少なくなっている。今後、小問・大問と各設問との関連性のさらなる深まりに期待したい。
(2)出題範囲	4	科目の特性として、時代では近現代史、地域では欧米、東アジアの出題が多いが、全体として、時代・地域・分野とも、各領域から出題されており、出題範囲として大変良いバランスであった。
(3)題材	4	図像資料、地図、グラフなど様々な資料の提示から題材が採られている。また、写真や地図の描かれ方から時代を深く考察させる設問に展開させるなど、題材選択の工夫も見られた。
(4)問題の場面設定	3	先生と生徒の会話など、学びの場面設定に対する工夫が見られており、概ね適切であった。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式は適切であった。概念的な理解を問う問題など、包括的知識や思考・判断を問う意欲的な出題がなされており、今後ともこのような出題を継続して欲しい。
(6)表現・用語	4	適切であった。
(7)難易度	3	昨年度の平均点を下回り、世界史Bとの差も拡大したが、大学入試の難易度として適切だったと考える。
(8)得点のちらばり	3	適正な分布であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	地域・時代・分野のバランスがとれており、共通テストとして適正な出題であった。資料の提示の仕方に工夫が見られ、思考判断や概念的思考を促す問いがなされていた。今後ともこのような設問の割合の増加を期待するとともに、大問やリード文のテーマに添った設問の一層の増加を期待したい。

科目名	世界史B
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	読み取った情報や知識を基に考察する問題や、包括的な知識を問う問題が多く出題されており、共通テストの目的に沿った問題となっていた。
(2)出題範囲	3	学習指導要領に照らし合わせて、出題範囲はおおむね適切であった。周辺地域に焦点を当てた出題や戦後史についての出題も含めた、時代や地域のバランスについて、今後一層の改善を期待したい
(3)題材	4	多くの受験者にとって、初見と思われる資料が多く、工夫が見られた。
(4)問題の場面設定	3	高校の授業や大学の授業など、実際の学びの場面が想定されていた。課題探究的な学びや、授業以外の学びの場面など、生徒主体の活動に視点をおいて出題すると、よりよいものになるだろう。
(5)問題構成	4	設問数や配点、設問形式等は適切であった。
(6)表現・用語	4	資料や問題文、選択肢を含め、文章の表現や用語の使い方は適切であった。
(7)難易度	4	大学入学希望者の学力を測る問題として適切な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高等学校学習指導要領の趣旨を反映した内容であり、入学者選抜の問題として適切であった。資料や問題文を丁寧に読み解くことを前提に論理整合性を問う問題や、概念的理解を問う問題も見られた。

科目名	日本史 A
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識・理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく出題されていた。また、歴史に関する事象を多面的・多角的に考察することが求められる問題が出題されており、適切な出題がなされている。
(2)出題範囲	3	やや細かな知識を問う問題もみられたが、特定の分野・領域に偏っておらず、高等学校学習指導要領に示された範囲からおおむね出題されていた。
(3)題材	4	切手の歴史、税と社会経済、旅についての調べ学習などさまざまな題材や資料を用いて、幕末からの日本近現代史の各時代・分野を横断的に問う工夫がなされていた。
(4)問題の場面設定	4	高校生の学習活動に沿った場面設定で、受験者がイメージしやすいように工夫がなされており、適切である。特に第5問は、戦争を次世代に伝えていくことの重要性を、受験者に投げかけるものになっており、よく練られている。
(5)問題構成	3	おおむね設問数、配点などは適切であった。ただし、思考力・判断力・表現力等を問う問題が多いため、受験者が読む問題・資料の分量が多く、もう少し分量を精査する必要がある。
(6)表現・用語	4	受験者が理解することが困難と思われる文章表現や用語等は特になかった。
(7)難易度	4	思考力・判断力・表現力等を問う問題はいずれも丁寧に問題文や資料を読み込めば判断することができる。知識・理解を問う問題は難易度の高いものもあったが、問題の多くは学習の成果を発揮して解く良問であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適正であったと考えられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	歴史に関わる事象を多面的・多角的に考察する過程を重視した問題であった。多様な資料を用いることで、知識・理解の質、思考力・判断力・表現力等がバランス良く問われ、全体として適切な試験であった。

科目名	日本史B
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	各時代の特色とその変遷, 外国との関係について, 諸資料に基づいて総合的に問う視点が総じて明確であった。各設問からは, 知識・理解に偏ることなく, 諸資料を活用しながら思考力・判断力・表現力等をバランス良く問うための工夫が感じられた。
(2)出題範囲	3	時代・分野・領域のいずれにおいても極端に大きな偏りは感じられず, おおむね適切であった。
(3)題材	4	歴史の展開を考察させるための資料として, 地図や統計資料, 模式図, 新聞の見出し一覧など, 昨年度よりも多様な資料が用いられ, 思考力・判断力・表現力等を問うことに効果的であった。
(4)問題の場面設定	4	大半の大問で学習指導要領が求める高校生の学習活動に沿った場面が設定されていた。修学旅行という特別活動を題材とした出題もあり, 身近な生活に基づく出題の工夫は評価したい。
(5)問題構成	4	設問数・配点・設問形式のいずれにおいても適切であった。
(6)表現・用語	3	解答に際して特に難解と感じる表現・用語は見られなかった。史料から情報を読み取るだけではなく, その背景を考察させる設問については, 設問文や提示資料の工夫を重ねた上で, 今後も継続して出題されることを期待する。
(7)難易度	4	総じて適正であったと言える。昨年度に引き続いて初見の資料が多数引用されたが, 歴史的事象の意味や意義に関する深い理解があれば, 難易度の高いものではなく, 解答は十分に可能であったと考えられる。
(8)得点のちらばり	4	著しい偏りは感じられず, おおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題のねらいが明確であり, これからの学校教育の在り方に対するメッセージ性に富んだ内容であった。次年度以降も, 歴史的思考力を多角的・多面的に問う良質な問題を期待したい。

科目名	地理A
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針に則り、資料から読み取って得た情報を基に考察する力、知識・技能、探究を深めたり課題を解決したりしようとする力がバランス良く問われている。
(2)出題範囲	4	地理的技能、自然環境や生活・文化、北アメリカを対象とした探究的考察、地域調査が出題され、学習指導要領が示す範囲からバランス良く問われている。
(3)題材	4	地理の授業で学んだことがある内容のみでなく、初見の内容も多く、どの問題も題材が工夫されている。実際の地理的事象のみでなく、モデル化された問題やシミュレーションさせる問題も見られる。
(4)問題の場面設定	4	特に第4問では、生徒自らが問いを設定して探究していく過程が取られ、第5問では生徒が自ら地域調査を進める過程が取られており、第1問～第3問と合わせて多様でバランス良く設定されている。
(5)問題構成	4	出題のねらい、範囲、題材、場面設定ともに、バランスよく多様な観点から出題されている。各大問の設問数及び総問題数も適切である。
(6)表現・用語	3	受験者に配慮した適切な表現や用語が使われているが、問題文が全体的に長くなる傾向があり、問い方の簡素化の検討が必要である。また、写真が小さく解答に戸惑う問題もある。
(7)難易度	4	大半の問題は、資料から読み取った情報を基に、知識や技能、地理的な見方や考え方を働かせて考察できるものとなっており、標準的なものを基本としつつ易問・難問のバランスも考慮されている。
(8)得点のちらばり	4	平均点付近を中心に、正規分布に近い広がりが見られ、弁別性が適切に機能していたと考えられる。高得点層が今よりやや増えるとさらに良好であると感じられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	問題全般にわたり工夫が見られ、ねらい、出題範囲や題材、場面設定などの問い方、難易度等、各観点ともに工夫され、バランスよく出題されている。

科目名	地理B
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	受験者が初見となる図表を用いて、知識の理解の質を問う問題や思考力等を発揮して解く問題の出題も含め、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	高等学校での学びを反映しており、適切である。
(3)題材	4	地理を学ぶ上での基礎的・基本的な知識を活用する問題で構成されており、出題される資料等が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	高等学校での実際の探究活動を意識した場面設定であり、教科・科目の本質に照らして必然性のある形で出題されている。
(5)問題構成	4	問題の難易度に応じた配点等、試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	高等学校段階での学びで解答できる文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	3	各大問に一つ程度、高等学校での通常の学習では解答が難しいと感じられる問題が見られるが、問題の難易度はおおむね適正である。
(8)得点のちらばり	4	受験者の解答分布は、成績群による正答比率が成績上位群ほど高くなる問題が多く、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験問題である。



科目名	現代社会
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的・基本的な知識や理解を直接問うものだけでなく、多様な資料等を活用して思考力・判断力・表現力等を問うものや、資料読取りの技能を問うもの等がバランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	倫理分野で少々細かな知識を問う問題も見られたが、政治分野から経済分野まで偏ることのない適切な出題となっている。
(3)題材	4	出題される資料等については、特定の教科書に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	4	短い表現で適切な場面が設定されている。その場面も海外研修、観劇、大学の体験講義、新聞講読と多岐に及んでおり、受験者にとって取り組みやすいものになっている。
(5)問題構成	3	文章や資料の分量が多く、解答に係る時間的余裕は全く無かったと推測されるが、思考力・判断力・表現力等や技能等を問う出題意図からはやむを得ないとも考える。
(6)表現・用語	3	受験者にとって読みやすい表現になっている。一部の問題で主語が明確に読み取れなかったために受験者が悩んだと思われるものがあったが、全体として取り組みやすいものになっている。
(7)難易度	4	おおむね標準的な難易度の問題が多く、全体として難易度は適正であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは、著しい偏りはなく、おおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、今後の学力観の方向性に対する出題者の明確なメッセージが感じられる良問であった。知識・理解に関する問題と多様な資料を活用して多面的・多角的に考察させる問題がバランスよく出題され、大問としてのまとまりもみられた問題が多かった。

科目名	倫理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題がバランスよく出題されていた。
(2)出題範囲	3	おおむね高等学校学習指導要領の範囲内から偏りなく出題されていたが、中には細かい知識を問う設問が含まれていた。
(3)題材	3	大問のテーマの中には現実社会の諸課題を多面的・多角的に考察する内容が含まれており、科目の特性に鑑みて適切であった。特定の教科書のみで扱われている知識については改善を求めたい。
(4)問題の場面設定	4	生徒が自ら課題を発見し、教員や生徒と対話しながら協働して学習し、学んだ成果をまとめて発表するなどの場面設定がされていた。高校における授業改善を促すものとなっていた。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式はおおむね適切であった。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切であった。
(7)難易度	4	おおむね標準的な難易度の問題が多く、全体的な難易度は適切であった。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適切であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に適切な試験である。文章や資料を読み解きながら、単純な知識理解を問うだけでなく、多面的・多角的に考察させる意欲的な設問があり、特定の分野に偏らずバランスよく出題されていた。

科目名	政治・経済
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題も含めバランスよく出題されている。ただし、昨年度よりも知識・理解を中心に問う出題が増えたと感じられる。
(2)出題範囲	4	政治分野と経済分野のバランスに配慮されており、高等学校学習指導要領の範囲内から出題されていることから、出題範囲は適切である。
(3)題材	4	出題される資料等については、特定の教科書に偏っておらず適切である。教科等横断的な出題もみられた。
(4)問題の場面設定	3	教科・科目の本質に照らしておおむね必然性のある形で出題されており、問題の場面設定は適切である。高等学校における生徒の主体的な学習過程を意識した場面設定は、高等学校における授業改善へのメッセージ性がある。しかし、その一方で、各設問との関連性が希薄な場面設定もみられ、更なる工夫を期待したい。
(5)問題構成	3	問題構成はおおむね適切であるが、分野によってはまとまりがなく、設問ごとのつながりがない構成もみられた。解答に不要な文言を削減するなど問題量に工夫がみられるが、解答に時間のかかる設問も多く、受験者にとって解答時間は十分でなかったと思われる。また、配点のバランスについては、改善を求めたい。
(6)表現・用語	4	受験者が理解しやすいように工夫されており、文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	4	標準的な難易度の問題が多く、平易な問題と難易度が高い問題とのバランスも良い。問題の難易度は適正である。ただし、読み取る文章量が多く時間内で解答しきれないことが想定される。昨年度に比べて知識・理解を問う問題が増え、なかには細かな知識の理解が必要で解答が難しい問題もみられた。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは正規分布を示しており、適正である。ただし、知識・理解を問う設問の正答率が低い傾向がみられ、得点のちらばりが低下する傾向がみられる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。場面設定は、高等学校の授業改善を促すメッセージ性のあるものであり、受験者の解答の負担を減らしながら、課題発見・解決の場面を設定する等の工夫がみられた。その一方で、昨年度に比べ知識・理解を問う問題が増えており、平均点の低下につながったと感じられる。共通テスト実施の趣旨に鑑み、思考力・判断力・表現力等を問う問題の出題増についての検討を要する。

科目名	倫理, 政治・経済
-----	-----------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題がバランスよく出題されていた。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から偏りなく出題されていることから出題範囲は適切である。
(3)題材	3	出題される資料等については、「倫理, 政治・経済」全体としては、特定の教科書に偏っておらず、おおむね適切である。 ただし、「倫理」において、特定の教科書のみで扱われている知識がみられた。これについては改善を求めたい。
(4)問題の場面設定	3	高等学校における生徒の主体的な学習過程を意識した場面設定は、高等学校における授業改善へのメッセージ性がある。 ただし、「政治・経済」において、各設問との関連性が希薄な場面設定もみられ、更なる工夫を期待したい。
(5)問題構成	3	問題構成はおおむね適切である。 ただし、「政治・経済」については、解答に時間のかかる設問も多く、受験者にとって解答時間は十分ではなかったと思われる。
(6)表現・用語	4	受験者が理解しやすいよう工夫されており、文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	4	標準的な難易度の問題が多く、問題の難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切な試験である。資料等を読み取らせながら、単純な知識・理解を問うだけでなく、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問もみられ、多角的・多面的に考察させる設問が多くみられた。

科目名	数学 I
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、数学を活用した問題解決に向けて、見通しを立てる力、解決過程を振り返り、得られた結果を意味付ける力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	試験時間や受験者層等に照らして、配点、設問形式は適切であるものの、事象を数学化する部分の文字量がやや多く、受験者が問題場面の理解に時間を要してしまう可能性がある。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないよう、図も交えて説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名	数学 I ・ 数学 A
-----	-------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や社会の事象を数理的に捉える力や、数学を活用した問題解決に向けて、見通しを立てる力、解決過程を振り返り、得られた結果を意味付ける力も問うており、バランスよく出題されている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されており、設問内容も学習指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	全体を通して、数学的な問題解決の過程を意識した場面設定が含まれており、問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	試験時間や受験者層等に照らして配点と設問形式は適切であるものの、事象を数学化する部分の文字量がやや多く、受験者が問題場面の理解に時間を要してしまう可能性がある。
(6)表現・用語	4	理解し難い表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないよう、図も交えて説明されており、適切である。
(7)難易度	4	学びの質の面でやや難易度が高い問題も見られたものの、育成すべき資質・能力の視点に鑑みた際にその意義は重要であり、全体としては、基本～標準的な難易度で構成されており、概ね適切である。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲は適切であり、育成を目指す資質・能力に資する数学的な問題解決の場面設定と問題構成がなされている。問題全体の難易度は概ね適切であり、得点のちらばりは適正であった。問題作成方針に即して概ね適切である。

科目名	数学Ⅱ
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけでなく、問題の後半では前半で求めた結果を用いて考察させる知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を問う問題も出題されており、バランスのとれた出題といえる。
(2)出題範囲	4	特定の分野・領域に偏りもなく科目の全範囲から出題されており適切である。
(3)題材	4	出題された題材は特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	数学的な課題を的確かつ能率的に処理し、数学的な見方・考え方を働かせて結果を振り返ることで解決をする過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されているが、誘導に気付きにくいものがある。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現はなく、会話文も解決の見通しを立てさせる最小限のものとなっており、適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。



科目名	数学Ⅱ・数学B
-----	---------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、数学的に処理する力を問うだけにとどまらず、日常生活や与えられた事象の特徴を捉えて数学化し、数学を活用した問題解決に向けて見通しを立てる力や得られた結果を振り返って活用する力などが問われており、バランスの取れた出題となっている。
(2)出題範囲	4	全体を通して科目の全範囲から適切に出題されている。設問内容も指導要領の範囲内であるとともに、その内容に極端な偏りもなく適切である。
(3)題材	4	出題された題材や場面の設定が特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	数学的な課題を的確かつ能率的に処理し、数学的な見方・考え方を働かせて結果を振り返ることで解決をする過程が重視されている。問題作成方針に照らして適切である。
(5)問題構成	3	数学的な思考力・判断力・表現力等を問う問題がバランスよく配置されているが、誘導に気付きにくいものがある。
(6)表現・用語	4	理解しがたい表現や誤解を与える表現は特になく、使用する用語についても受験者の学習の履歴が解答に影響しないよう、図も交えて説明されており、適切である。
(7)難易度	4	問題の難易度は適正であった。基礎的な事項の理解を問う問題と、数学的な思考力・計算力等を問う問題がバランス良く出題されていた。
(8)得点のちらばり	4	標準偏差や得点の分布を鑑みた結果、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題範囲や難易度は適切であり、数学的な問題解決の過程を重視した試験である。生徒の学びの質を測る設問もあり、高等学校段階における基礎的な学習の達成度を測る試験として適切である。



科目名	簿記・会計
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基礎的内容から応用的内容まで網羅されており,知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解く問題を含め,バランスの良い出題である。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲内から適切に出題されており,特定分野・領域に偏っておらず適切である。
(3)題材	4	資料等は,特定の教科書に偏っておらず適切である。
(4)問題の場面設定	4	簿記研修会における新入社員と講師とのやりとりから簿記・会計の基本についての理解を深めていく様子は,簿記の学習過程さながらであり,適切な場面設定である。
(5)問題構成	3	基礎的内容と応用的内容の出題がバランス良く構成されている。一方,読み取りに手間取り,やや解答時間に不足が生じている傾向が見受けられる。設問数,配点,設問形式等試験問題の構成は適切である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は,教科書の一般的な表現を使用しており,適切である。
(7)難易度	4	平均点は昨年度よりもやや下がったが,難易度は適正である。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは,おおむね正規分布に近い形を示しており,適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	上記の項目別評価を踏まえて総合的に評価すると,大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	情報関係基礎
-----	--------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	情報に関する基礎的科目における知識の理解の質, 思考力・判断力・表現力等といった資質・能力を踏まえ, 問題解決を進めていく過程を意識した出題がなされている。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領の範囲において, 基本的な内容からそれを活用する内容まで, 特定の学科に偏らない出題がなされている。
(3)題材	4	特定の学科の学習内容に偏ることなく, どの学科に属した受験者でも, 出題内容を読み取ることができる題材である。
(4)問題の場面設定	4	基本的な知識を用いて, 身近な問題を解決する手順や方策などを考える場面が設定されており, 適切である。
(5)問題構成	3	共通問題2問必答, 選択問題から1問選択という出題形式は, 受験者の出身学科における学習内容の差異を鑑みると, 適切である。ただし, 配点については, 設問ごとの難易度に応じた点数になるよう, 配慮をお願いしたい。
(6)表現・用語	4	文章の表現や用語の使い方は適切である。また, 文章だけでなく図や表も示すことにより, 問題文の内容を適切に理解できる配慮がなされている。
(7)難易度	4	解答に時間を要する問題も見られたが, 選択問題である第3問と第4問における難易度の差も小さくなっており, 受験者の資質・能力を測る上では適切である。
(8)得点のちらばり	4	平均点, 標準偏差の値からも適切な分布である。また, 出題範囲, 難易度, 受験者の実態からも適切である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	以上の観点を踏まえ, 知識の理解の質, 思考力・判断力・表現力等を問う大学入学共通テストの試験問題として適切である。

科目名	物理基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して考察することが求められ、大学教育を受けるために必要な能力を測るための問題として適切であった。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から、特定の分野・領域に極端に偏ることなく出題されていた。
(3)題材	4	特定の教科書に偏っていない。見慣れない題材についても解答しやすいように、実験結果やグラフ、思考の過程が丁寧に説明されていた。
(4)問題の場面設定	4	科学の探究過程を意識した場面設定がされている。学校生活や日常生活の中で課題を見つけ、協働的に学習する場面が多く設定されていた。
(5)問題構成	4	問題の構成（設問数、配点、設問形式等）は、受験者の学習状況と照らし合わせ適正である。2択および3択の設問を無くしたことは、問題の識別力が高くなるので高く評価できる。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語について、理解しにくい表現はなく、場面設定や図の説明等、端的に示されるよう工夫されており、わかりやすく適切に出題されている。
(7)難易度	4	基礎的、標準的な設問を中心に、探究的な場面設定を通して日常生活への物理概念の応用を求められる発展的な設問も含まれており、難易度としては適正である。
(8)得点のちらばり	4	平均点 28.19 点、標準偏差 9.65 で、得点分布はおおむね正規分布に従っており、得点のちらばりは適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の到達の程度を判定できる設問で、大学での教育を受けるために必要な能力を把握する目的を達成しているため、大学入学共通テストの試験問題として適正である。

科目名	物理
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえて、知識の理解の質を問う問題や思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題のバランスがとれた出題となっていた。
(2)出題範囲	3	高等学校学習指導要領の範囲内からの出題であったが、熱と原子は共に小問集合で1問ずつの出題であり、若干の偏りがあった（大問4問の構成なので、致し方ないと考えられる）。
(3)題材	4	特定の教科書に偏っていない。
(4)問題の場面設定	4	体重計やアルミカップなどといった身近な題材を用いており、日常生活と結びついた内容の出題となっていた。最初に立てた仮定を、実験を通じて検証し、正しい結論へと導いていく過程なども学習の過程を意識したものとして適切であった。
(5)問題構成	4	探究をテーマとした問題が二題出題されたため、特定分野に偏りが見られたが、他分野との融合問題や小問集合でうまくバランスがとれていた。また、基本を問う問題から資料を活用する力を問う問題、思考力を問う問題など多角的な構成であったと思われる。
(6)表現・用語	3	全体的に適切で、分かりやすい表現で出題されていた。誤認を誘発する表現や通常ではあまり使用しない表記を解答として求める問題があった。
(7)難易度	3	全体的に文章量や表・グラフが多く、読み取りに時間がかかると思われるが平易な設問もあり、平均点から考えて妥当な難易度であった。選択肢の作りによって、正答率が上がったと思われる問題もあった。
(8)得点のちらばり	4	昨年度に比べて平均点が高かったため、少し高得点側に寄った分布となったが、標準偏差が 22.72 であり、妥当の範疇であるといえる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	出題のねらいが明確で、知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問う問題であった。探究の過程を重視した出題構成は、高等学校の授業改善へ有効なメッセージになったと思われる。

科目名	化学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質のみならず，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが重視されており，バランスの取れた出題であった。
(2)出題範囲	3	高等学校学習指導要領の範囲から出題されていた。 特定の分野・領域への偏りが，ややみられた。
(3)題材	4	大学入学共通テスト問題作成方針のとおり，教科書等で詳しくは扱っていない範囲が出題されたが，丁寧な問題文や図表等が与えられており，初見でも解答できるように工夫されていた。
(4)問題の場面設定	4	実験を題材として，探究活動の過程を踏まえ，与えられたデータ等から必要なものを用いて考察する問題が出題された。
(5)問題構成	4	第1問は小問集合問題，第2問は一つの題材についての総合問題であった。小問数は16，解答数は20であった。
(6)表現・用語	4	全体として，高校生にもわかりやすい文章表現・用語が用いられており，理解しやすいものであった。
(7)難易度	4	全体の平均点が29.42点(58.84%)と，前回の27.73点(55.46%)とほぼ同等であり，適正な難易度であった。
(8)得点のちらばり	4	得点の散らばりは適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	大学入学共通テスト実施大綱のとおり，「知識・技能のみならず，思考力・判断力・表現力等も重視して評価を行う」ために，上記の各項目について工夫され，受験者への配慮が見られた適切な問題であった。

科目名	化学
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力・判断力・表現力等を問うという「作成方針」に沿った内容であった。資料やデータ等を基に考察する場面など学習の過程を意識した問題も含まれていた。
(2)出題範囲	4	「物質の状態と平衡」、「物質の変化と平衡」、「無機物質の性質」、「有機化合物の性質」、「高分子化合物の性質」から幅広く出題されており、学習指導要領に示された範囲を網羅していた。
(3)題材	4	「受験者にとって既知でないもの」からの出題については受験者への配慮がうかがえた。
(4)問題の場面設定	4	学習の過程を踏まえた問題が含まれており、大学入学共通テストの趣旨に沿っていた。
(5)問題構成	3	第1問から第4問までは分野別の出題であり、第5問は総合的な問題であった。受験者の思考力・判断力・表現力等を定量的に測定する工夫された問題が多かった反面、一定数の受験者にとってすべての問題に時間内に解答することは難しい構成であった。
(6)表現・用語	4	実験装置の図が掲載されるなど、受験者の負担を軽減する配慮が見られた。問題文が長くなっているものの、「受験生にとって既知でないもの」を丁寧に説明した結果であると考えられる。
(7)難易度	3	昨年に引き続き計算問題や思考力等を問う問題が多く、全体としての難度も同様であった。得点調整が行われたことを含め、科目間の難度の調整をお願いしたい。
(8)得点のちらばり	4	平均点は得点調整後で54.01点（昨年度は47.63点）、標準偏差は得点調整後で20.71（昨年度は20.28）であった。受験者の学力に応じて得点が適切に分散していた。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「化学」の各分野から幅広く、偏り無く出題されており、学習指導要領に準拠した、幅広い受験者の化学に関する理解度を定量的に評価できる良問が多かった。一方、試験時間に対して計算問題や思考力等を問う問題が多く、受験者の負担も大きかった。

科目名	生物基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1) 出題のねらい	4	知識の理解を問う問いだけでなく、課題研究活動により培われた思考力を求められるような問いもあり、全体的にバランス良く出題されていた。
(2) 出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める三つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3) 題材	3	教科書間の偏りはおおむねなかったが、ある題材においては、一部の教科書でのみ取り上げられているものも見られた。
(4) 問題の場面設定	4	問題の場面設定が、「生物基礎」の本質に照らし、必然性のある形で出題されている。
(5) 問題構成	3	全 18 問あり、共通テストに変わって以降、問題数が増加し続けており、問題数の削減を強く求める。
(6) 表現・用語	3	図や表の説明が、問いかけ文と図の注釈部分に分かれて記述されていて、受験者に理解しづらい問がいくつか見られた。解答に必要な情報が読み取りやすくなるように表記するなど、受験者に分かりやすい記述を望む。
(7) 難易度	2	平均点は 5 割に届かず、理科の基礎科目の難易度としては、適正とは言えない。
(8) 得点のちらばり	4	得点の分布はおおむね正規分布を示しており、得点の散らばりは適正であったと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	全体として、受験者の高等学校段階における基礎的な学習の達成度を判定するための試験としておおむね適切であったが、基礎科目として適正な難易度の出題をお願いしたい。

科目名	生物
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解く実験考察問題を中心に、バランス良く出題されていた。
(2)出題範囲	4	高等学校学習指導要領に定める五つの大項目から偏りなく出題されていた。
(3)題材	3	設問の題材等は特定の教科書に偏っていないが、初見の題材がほとんどを占めたことで、高等学校で身に付けた知識や思考力等を十分活用できなかった受験者が多かったと思われる。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程を意識した問題の場面設定がなされていた。
(5)問題構成	4	設問数、配点、設問形式等はおおむね適正である。
(6)表現・用語	3	文章表現・用語はおおむね適切であったが、受験者にとってなじみのない専門用語が散見された。
(7)難易度	1	全体を通して、背景や設定の情報量が多く、それらを理解するための時間や労力がかかり過ぎ、思考する時間が十分に確保できなかったと思われる。さらに、正答を導くことが難しい問題も多かった。結果として、全体的な難易度が高くなり過ぎたのではないかと考えられる。
(8)得点のちらばり	2	得点分布が下方に偏りすぎている。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	2	個々の問題は、良問と評価できるものも少なくなかったが、共通テスト「生物」として全体を考えると、情報量が多すぎるうえ、難易度が高い問題が多かったために、受験者の学力を適正に評価できたとはいえない。



科目名	地学基礎
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	基本的な知識を問う問題だけではなく、思考力、判断力、表現力等を要する問題も見られ、共通テストの問題作成方針にのっとったものであり、概ねバランスのとれた出題となっている。
(2)出題範囲	3	出題内容や出題範囲については、ほぼ教科書に準じた内容から構成されており、学習指導要領に示された範囲から概ね出題されていた。しかし、いくつかの問題は「地学基礎」の範囲外であると考えられる。
(3)題材	4	問題で使った題材は、教科書によって取り扱いに差が見られるものもあったが、特定の教科書への偏りはなかった。
(4)問題の場面設定	4	観察に関する問題や図を使った問題は、普段の学習で経験してきたことを生かして考察する内容であった。
(5)問題構成	4	問題数、配点、選択肢とも、概ね適切であった。
(6)表現・用語	4	全体として、受験者に分かりやすい表現が用いられており、理解しやすいもので、概ね適切であった。
(7)難易度	4	問題の難易度は概ね適切であった。
(8)得点のちらばり	4	高得点を取る受験者ほど正答率が高くなるような問題が多く、得点の散らばりも概ね適正である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	基礎的な知識を問う問題や、科学的な思考力、判断力、応用力等を問う問題におおむね構成されており、「地学基礎」の学習達成度を測るための問題であったと考える。

科目名	地学
-----	----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	問題作成方針を踏まえ、知識の理解を問う問題や思考力、判断力、表現力等が求められる問題が、バランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	学習指導要領の範囲内から適切に出題されているが、「宇宙の構造」からの出題がやや多かった。
(3)題材	4	教科書によって取扱いに差が見られるものもあったが、特定の教科書への偏りはなかった。
(4)問題の場面設定	4	探究活動や観察、実験、野外実習など、共通テストの問題作成方針を踏まえた設問が複数あり、適切であった。
(5)問題構成	3	問題文の量は適正であり、選択肢の数等も適切であった。設問形式では、図・グラフを用いた考察問題が多く、検討の余地がある。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は、教科書を基にしたもので適切であった。
(7)難易度	3	難易度は昨年度よりやや難化した。図・グラフを用いた考察問題が大幅に増えたことや細かな知識を問う問題が出題されたことが一因と考えられる。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりはおおむね適正であった。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	「地学」の学習到達度を測るため、知識の理解や思考力、判断力、表現力等を総合的に問う問題で構成されている。

科目名	英語（リーディング）
-----	------------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	正確な知識・理解を測る一方で、解答に至るまでのプロセスが多様で、柔軟な思考力・判断力・表現力を発揮して解く設問もあり、出題のバランスは良い。
(2)出題範囲	4	高等学校段階で学習する範囲の言語材料の知識で対応できる出題で、受験者への負荷は適正なレベルである。
(3)題材	4	日常的な話題、社会的な話題、科学的な話題から幅広く取材されており、受験者の知的関心に合った適切な題材である。
(4)問題の場面設定	4	高等学校における学習の過程が意識されており、問題の場面設定は適切であった。
(5)問題構成	3	試験時間に照らして、全体の文章量はやや多いが、問題構成としてはおおむね適切であった。
(6)表現・用語	4	文章表現は学習指導要領に示された範囲内で、それぞれの設定に応じ、適切なものであった。
(7)難易度	4	一部混乱しやすい選択肢が含まれる設問もあったが、様々な目的や場面、状況などに応じて、概要や要点を把握したり、必要とする情報を適切に読み取ったりする力を測るために、平易なものからやや難しいものまでバランスよく出題されている。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適正で、幅広い受験者層を適切に識別できる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として、グローバル社会で活躍する人材の育成を目指した英語教育改革の方向性を反映しており、外国語の知識を、実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて活用できるかを評価するテストとして、適切である。

科目名	英語（リスニング）
-----	-----------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	本テストでは、リスニングに特化した教材使用の指導ではなく、語用論を意識し、目的・場面・状況と発話の含意と文脈、話者の意図などを理解する活動が必要であることが、出題に明確に表れている。
(2)出題範囲	4	高等学校で学ぶ「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」で学ぶ内容・範囲を網羅している。
(3)題材	4	日常の身近な話題から社会問題まで、幅広い分野の題材が使用されており、モノログ、二者の対話、四者の対話、講義などの形式で題材が扱われている。
(4)問題の場面設定	4	「道案内」や「辞書の使用」等、今後の社会の変化によっては、変えていくべき場面設定もある。オンラインゲームの結果発表については、協議終了後のアナウンスだということがより明確に示されても良いのではないか。
(5)問題構成	4	第1問は、AよりBの方が正答率が高いので、順番を入れ替えても良いのではないか。第5問の講義内で教員と生徒が内容を確認するようなやり取りを入れて、1回読みであっても内容をより分かりやすくしてはどうか。
(6)表現・用語	4	流れてくる英語の表現が言い換えられて選択肢に用いられていたり、イギリス英語や英語を母語としない話者などの多様な英語が使われている。
(7)難易度	4	一部には、難しい問いもあったが、全体的には標準的な難易度であり、適切であった。
(8)得点のちらばり	4	平均点等のデータから見ても、適切であると思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体的に音声は聴き取りやすく、実生活に起こる身近なコミュニケーションを目標とする場面・状況設定で、内容全体と文脈、話者の意図や含意を聞き取る力を測るよう作られている。学習指導要領に沿った4技能5領域のバランスの良い言語活動と指導の重要性を明示しており、適切な問題である。

科目名	ドイツ語
-----	------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	
(2)出題範囲	3	
(3)題材	3	高等学校用の教材は存在していない。コミュニケーションベースの一部教科書に掲載されていた語彙が多用されていたように思える。
(4)問題の場面設定	4	高校生の生活に起こりうる場面設定が多い。
(5)問題構成	3	発音、文法、構文、会話、長文などバランスの良い構成である。
(6)表現・用語	4	文章表現・用語は適切である。
(7)難易度	4	英語のように3年間継続して学習していれば適切である。
(8)得点のちらばり	3	母集団が少ないため、統計的に意味のある分布とは思われないが、おおむね妥当な範囲だと思われる。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	英語のように3年間継続して学習していればおおむね適切である。苦言を呈するならば、「不規則変化」などの文法用語は排除しないで欲しい。

科目名	フランス語
-----	-------

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	知識を問う問題と思考力を発揮する問題がバランス良く出題されている。
(2)出題範囲	4	出題範囲は適切である。
(3)題材	4	独自の問題が作成されていて適切である。
(4)問題の場面設定	4	科目の独自性に合致し、高校生にもなじみのある設定である。
(5)問題構成	4	基本から応用まで幅広くカバーしていて適切である。
(6)表現・用語	4	用語は適切である。
(7)難易度	3	おおむね適切であるが、一部の問題は少々難しい。
(8)得点のちらばり	4	得点のちらばりは適切である。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	全体として適切である。

科目名	中国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	4	表やグラフを使った問題など工夫がみられ、言語材料を複数組み合わせ、思考力や総合的な判断力を問う問題を含め、バランス良く出題されている。会話や文章題の空欄補充等も文法にこだわらず、会話や文の流れを捉えさせる問題であり、おおむね適切である。
(2)出題範囲	4	学習指導要領第2章第8節では、「その他の外国語」は「英語に関する各科目」に「準じて行うものとする。」とあり、明確な範囲は考えにくい、3年間で学ぶ範囲としておおむね適切な出題であった。主要辞書の重要語等を使っている。
(3)題材	4	出題される資料等が特定の教科書に偏っておらず、適切である。
(4)問題の場面設定	3	教科・科目の本質に照らして必然性のある形でおおむね出題されている。
(5)問題構成	4	発音・ピンインの理解・語句・表現・会話・図表の読み取り・長文読解の構成で、第4問では複数の言語材料が提示され、第5問では文章量も増え、分析能力を重視している。試験時間と問題数のバランスも適切であり、これ以上の分量は厳しいと思われる。
(6)表現・用語	4	設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。設問の仕方は適切であり、文章表現・用語の使用はおおむね適正である。
(7)難易度	3	問題の難易度はおおむね適正である。受験者の特性を鑑みて今後も平均点にこだわらず、適正な難易度を保っていただきたい。
(8)得点のちらばり	3	得点のちらばりはおおむね適正である。受験者の構成や科目の特性上、高得点者に偏りがみられるのはいたしかたない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	4	高等学校の学習状況を考え、基礎的な学習の達成度や思考力が測れる問題の出題となっている。受験者の特性や科目の特性に配慮がなされ、よく工夫しており、おおむね適切な問題作成がなされている。

科目名	韓国語
-----	-----

## 1. 項目別評価

項目	評価結果	コメント
(1)出題のねらい	3	第1問A及びBで思考力を問う問題になっていない。
(2)出題範囲	3	学習範囲（外国語としての学習範囲を含む）を逸脱している語彙、表現などが見受けられる。
(3)題材	4	おおむね、高校生が学習する上で適切な題材を扱っている。
(4)問題の場面設定	3	実際のコミュニケーションの場面を想定した問題になっていない出題がある。
(5)問題構成	3	第1問A及びBの改善が求められる。
(6)表現・用語	3	第1問A及びBの語彙等に問題がある。
(7)難易度	3	第1問A及びBに難易度の高い出題がある。
(8)得点のちらばり	3	純粋な学習者のみが受験しているのではないので、判断できない。

## 2. 総合評価

項目	評価結果	コメント
総合評価	3	第1問A及びBの改善を求める。